

イベント

「猿とモルターレ」アーカイブ・プロジェクト

3/10(土) 13:00—17:45

考えるテーブル シネマてつがくカフェ

『「猿とモルターレ」映像記録から“継承”を考える』

砂連尾理が震災後に避難所生活する人びとの交流を通じて、非常に困難な状況を経験した人びとの「命懸けの跳躍(=サルト・モルターレ)」を考察し、未来に向けて生きる私たちのサルト・モルターレを模索したパフォーマンス作品『猿とモルターレ』。その映像記録を鑑賞し、そこから「私たちは何を“継承”したのか」を共に語り合いたいと思います。

ファシリテーター：西村高宏・近田真美子(てつがくカフェ@せんだい)

会場：1f オープンスクエア 参加無料・申込不要・直接会場へ

3/11(日) 11:00—17:00

朗読+映像ワークショップ

朗読ワークショップでは、瀬尾夏美の『二重のまち』のテキストをもとに、さまざまな方法で朗読することで、出来事を経験している人/していない人の声や身体が、出来事を継承していく可能性について考えます。そして映像ワークショップでは、カメラに撮られることによる身体の変化を実際に観察することで、出来事がメディアで記録され、伝えられていくことの危うさや可能性を考察していきます。

会場：7f スタジオa 参加無料・要申込

申込方法：2/17(土)10:00よりメディアテーク企画・活動支援室(022-713-4483)

にてお電話で受け付けます。(先着20名)

この活動は一般財団法人 おおさか創造千島財団の助成を受けています。

かんらんしゅ

欲藍社

3/10(土)・3/11(日) 10:00—12:00

「手仕事から考えるー農村と海辺をつなぐ藍ー」

わすれん!参加者の林剛平が福島県大玉村で藍を軸に「3.11後の農」を探求するために起ち上げた欲藍社。欲藍社では、藍の栽培から染色を協同作業ですることを通じて、農業における「作る喜び」の恢復に取り組んできました。今回は、福島県大玉村で育った藍から作られた天然藍顔料を用い、3.11以降の農業について対話しながら一緒に布を染めていきます。(各日、先着5名程度)

※当日は型紙を作成後、霧吹きを用いて藍染作業を行います。汚れてもよい格好でお越し下さい。

会場：1f オープンスクエア 参加無料・申込不要・直接会場へ

主催：問い合わせ

3がつ11にちをわすれないためにセンター(せんだいメディアテーク)

〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1

tel 022-713-4483 fax 022-713-4482

mail office@smt.city.sendai.jp

web http://recorder311.smt.jp/



この用紙はリサイクルできます。

星空と路 資料室*

3月11日の星空から7年が過ぎようとしています。

「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の参加者は、技術や経験の有無にかかわらず、

震災にまつわる様々なことがらを記録してきました。

そこには震災による被害の状況や変わりゆく地域の姿だけでなく、

参加者一人ひとりの想いや言葉が映し出されています。

変わり続ける姿を冷静に見つめながらも、

変わらず受け継いでいきたい大切なものを守ろうとする想い。

あるいは、変わってしまった土地に新たな魅力や価値を創造する取り組み。

彼・彼女らの真摯で逞しい活動とその記録群を通し、

これから歩いていく道りについて、

ご来場いただいたみなさまと共に考えるきっかけになればと思います。

2018年

2/24(土)—4/22(日) 9:00—22:00 *3/22(木)はお休み

せんだいメディアテーク

7fラウンジ

1f オープンスクエア *3/7(水)—3/11(日)のみ開催します。

入場無料 申込不要 出入自由